



2020年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年5月14日

上場会社名 アクセルマーク株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3624 URL https://www.axelmark.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾下 順治
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務本部長 (氏名) 鈴木 啓太 TEL 03-5354-3351
 四半期報告書提出予定日 2020年5月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 (代表取締役による四半期決算説明の動画配信を予定しております)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第2四半期の連結業績 (2019年10月1日～2020年3月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第2四半期	1,434	△0.7	△444	—	△440	—	△636	—
2019年9月期第2四半期	1,444	22.6	△287	—	△292	—	△778	—

(注) 包括利益 2020年9月期第2四半期 △636百万円 (-%) 2019年9月期第2四半期 △781百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第2四半期	△100.48	—
2019年9月期第2四半期	△160.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第2四半期	1,294	17	1.0
2019年9月期	1,932	281	14.3

(参考) 自己資本 2020年9月期第2四半期 12百万円 2019年9月期 275百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年9月期の連結業績予想 (2019年10月1日～2020年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	3,000	3.6	△940	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期2Q	6,817,700株	2019年9月期	6,027,900株
② 期末自己株式数	2020年9月期2Q	33株	2019年9月期	33株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期2Q	6,331,769株	2019年9月期2Q	4,862,207株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算説明内容の入手方法について）

当社は、COVID-19(新型コロナウイルス)感染症の拡大防止の観点から、従来開催しておりました会場での機関投資家向け決算説明会に代えて、2020年5月15日(金)に当社コーポレートページにて決算説明動画を配信する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な感染拡大とそれに伴う経済活動の自粛や停止により景気の先行きが極めて不透明な状況にあると考えられます。

当社が主にサービスを提供しているインターネット関連市場を取り巻く環境は、国内における個人の利用率は2009年以降80%前後で推移しており、特に13歳～59歳までのインターネット利用率は各年齢層で9割を超えており、既に多くの人々が利用している社会インフラとなっております。一方で産業界におけるインターネット利用はいまだに低い状況であるものの、今後は通信方式としての5GやIoTサービスの拡大、分散型台帳システム(ブロックチェーン)を利用した低コストで信頼性の高いサービスの拡大が普及を後押ししていくものと考えられ、それらによってインターネット上のさらなるデータ量の増大や、それによるAIの活用が見込まれております。

また、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大の影響による、人との接触を避ける行動が求められる状況となったことで、様々なサービスのオンライン移行や在宅勤務やローテーション勤務、eコマースの需要増など、産業構造や働き方の急激な社会変化が起きようとしており、IoTサービスやブロックチェーンを利用した各種サービスの普及がより後押しされるものと見込んでおります。

このような市場環境の下、当社グループは「基幹事業の入替による事業構造の転換」を事業方針に掲げ、ブロックチェーンゲーム関連事業及びIoTヘリソースを集中させております。

当社ではこれまでに他社に先駆けてブロックチェーンゲーム「コントラクトサーバント-card game」をリリースして運営しているほか、ブロックチェーンゲーム情報メディア「Blockchain Game info」のサービス提供を通してブロックチェーンゲーム関連サービスにおける知見を蓄積しております。

また、IoT領域では積雪深センサー「YUKIMI」を用いて全国30自治体と冬シーズンにおける実証実験を実施し、今後の拡販に向けて良好な実験結果を収めることができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,434,366千円(前年同期比0.7%減)、営業損失444,600千円(前年同期は287,040千円の営業損失)、経常損失440,328千円(前年同期は292,990千円の経常損失)、固定資産の減損損失や投資有価証券評価損等194,665千円を特別損失として計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失636,193千円(前年同期は778,585千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

なお、当社では、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大をうけ、感染リスク軽減と安全確保を第一とする方針のもと、在宅勤務(リモートワーク)の推奨やwebツールなどを使用した非対面による会議の運営、各種イベントの中止などの対応を実施しております。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

(ゲーム事業)

ゲーム事業の売上高は301,997千円(前年同期比33.1%減)、セグメント損失は351,701千円(前年同期は180,910千円のセグメント損失)となりました。

前年同期とゲームタイトルの構成が変化していることに加え、第1四半期連結会計期間にパズルゲーム「COLOR PIECEOUT(カラーピースアウト)」の運用方針を見直したことによって、当初の想定に比べて下回っていること等により、前年同期比で減収減益となっております。

注力しているブロックチェーンゲーム分野においては、「コントラクトサーバント-card game」が、正式サービスの開始以降、初となるクラウドセールにて、サーバントと呼ばれるカードの販売を行いました。アップデート計画を発表し、ユーザーが購入したサーバントを活用できる場や機会が増えるようなアップデートを実施してまいりました。

ブロックチェーンゲーム市場の健全化および活性化を目指し、複数社の共同で立ち上げた「ブロックチェーンコンテンツ協会」では、既存法を基に最低限守るべき内容をまとめたガイドラインを公表いたしました。

(広告事業)

広告事業の売上高は1,077,652千円(前年同期比16.3%増)、セグメント利益は14,700千円(前年同期比66.0%減)となりました。

アドネットワーク「ADroute」および運用代行サービス「トレーディングデスク」が伸長し、特に「ADroute」は過去最高の単月売上高を更新したこと等により増収となりましたが、IoT分野の取り組みに対する先行投資により減益となりました。

「ADroute」では、アドフラウドリストを共有する「SHARED BLACKLIST MEMBERS(以下、SBL MEMBERS)」に参画いたしました。当社ではインターネット広告配信においてアドフラウド(広告詐欺)と呼ばれる不正行為に対し、対策を定期的に進めております。しかし、その手口は年々高度化、巧妙化しており、自社の取組みだけではなく、広告配信事業者同士でアドフラウドの情報を共有し合うことにより、スピード感をもって対策を行い、より透明性の高い広告をユーザーに届けられるものと考えております。

(and Experience事業)

and Experience事業の売上高は58,480千円(前年同期比11.5%減)、セグメント損失は32,693千円(前年同期は74,674千円のセグメント損失)となりました。

当セグメントではIPを活用したサービスとしてオンラインくじサービス「くじコレ」や「プリントくじコレ」等を運営しておりますが、事業構造の転換を図る上で、これらのサービスについて、他社への移管の検討を進めるとともに、ブロックチェーンゲーム情報メディア「Blockchain Game info」を中心としたブロックチェーン関連サービスに注力してまいりました。特にアセットアナライザーにおいて機能拡充に向けた開発を進めてまいりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前期末に比べて637,676千円減少し、1,294,702千円となりました。これは、主に現金及び預金が421,715千円、無形固定資産が154,581千円、投資その他の資産が70,351千円減少したこと等によるものであります。

負債合計は、前期末に比べて373,896千円減少し、1,276,969千円となりました。これは、主に1年内返済予定を含む長期借入金が150,000千円減少、転換社債型新株予約権付社債が200,173千円転換されたこと等によるものであります。

純資産合計は、前期末に比べて263,780千円減少し、17,733千円となりました。これは、主に転換社債型新株予約権付社債の転換及び新株予約権の行使により資本金等が373,942千円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失を636,193千円計上したこと等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて661,715千円減少し、452,899千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内訳は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、443,909千円の減少(前年同期は177,082千円の減少)となりました。これは、主に減価償却費28,348千円、減損損失129,665千円の計上等があったものの、税金等調整前四半期純損失の計上634,994千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、241,207千円の減少(前年同期は195,506千円の減少)となりました。これは、主に定期預金の払戻による収入145,000千円があったものの、定期預金の預入による支出385,000千円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、23,401千円の増加(前年同期は48,244千円の増加)となりました。これは、長期借入金の返済による支出150,000千円があったものの、新株予約権の行使による株式の発行による収入173,401千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2020年2月13日に公表した業績予想を変更しておりません。

なお、現時点ではCOVID-19(新型コロナウイルス)による業績の影響は軽微であります。今後、状況が大きく変化し、業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,174,615	752,899
売掛金	350,970	341,855
貯蔵品	5,636	2,143
その他	42,353	67,365
流動資産合計	1,573,575	1,164,264
固定資産		
有形固定資産	39,779	36,347
無形固定資産	158,381	3,799
投資その他の資産	160,642	90,291
固定資産合計	358,803	130,438
資産合計	1,932,378	1,294,702
負債の部		
流動負債		
買掛金	230,990	252,766
1年内返済予定の長期借入金	300,000	300,000
未払法人税等	12,171	10,278
賞与引当金	36,371	34,628
その他	145,659	103,796
流動負債合計	725,193	701,470
固定負債		
長期借入金	150,000	—
転換社債型新株予約権付社債	775,672	575,499
固定負債合計	925,672	575,499
負債合計	1,650,865	1,276,969
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,221,021	1,407,992
資本剰余金	1,774,294	1,961,265
利益剰余金	△2,712,663	△3,348,856
自己株式	△25	△25
株主資本合計	282,628	20,376
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7,085	△7,506
その他の包括利益累計額合計	△7,085	△7,506
新株予約権	5,971	4,863
純資産合計	281,513	17,733
負債純資産合計	1,932,378	1,294,702

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)
売上高	1,444,458	1,434,366
売上原価	1,387,210	1,516,033
売上総利益又は売上総損失(△)	57,247	△81,667
販売費及び一般管理費	344,287	362,933
営業損失(△)	△287,040	△444,600
営業外収益		
受取利息	3	737
受取手数料	300	300
還付加算金	257	—
新株予約権戻入益	—	741
仮想通貨評価益	—	11,241
その他	83	32
営業外収益合計	643	13,051
営業外費用		
支払利息	2,877	1,840
投資事業組合運用損	1,635	3,662
新株予約権発行費	2,008	255
新株発行費	—	2,526
その他	72	495
営業外費用合計	6,593	8,779
経常損失(△)	△292,990	△440,328
特別損失		
減損損失	482,872	129,665
投資有価証券評価損	1,473	15,000
貸倒引当金繰入額	—	50,000
特別損失合計	484,345	194,665
税金等調整前四半期純損失(△)	△777,336	△634,994
法人税、住民税及び事業税	1,249	1,199
法人税等合計	1,249	1,199
四半期純損失(△)	△778,585	△636,193
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△778,585	△636,193

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失(△)	△778,585	△636,193
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,125	△420
その他の包括利益合計	△3,125	△420
四半期包括利益	△781,710	△636,614
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△781,710	△636,614
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△777,336	△634,994
減価償却費	94,853	28,348
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	50,000
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,248	△1,742
受取利息及び受取配当金	△3	△737
支払利息	2,877	1,840
減損損失	482,872	129,665
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,473	15,000
仮想通貨評価損益 (△は益)	△49	△11,241
売上債権の増減額 (△は増加)	△40,661	9,114
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,582	3,493
仮想通貨の増減額 (△は増加)	△268	△18,351
仕入債務の増減額 (△は減少)	73,778	21,775
未払金の増減額 (△は減少)	△69,755	△30,765
未払消費税等の増減額 (△は減少)	13,845	△9,270
その他	47,434	7,583
小計	△171,274	△440,281
利息及び配当金の受取額	3	737
利息の支払額	△2,851	△1,954
法人税等の支払額	△2,959	△2,411
営業活動によるキャッシュ・フロー	△177,082	△443,909
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△30,000	△385,000
定期預金の払戻による収入	—	145,000
有形固定資産の取得による支出	△1,945	—
無形固定資産の取得による支出	△95,443	—
投資有価証券の取得による支出	△65,000	—
敷金の差入による支出	△3,117	△1,207
投資活動によるキャッシュ・フロー	△195,506	△241,207
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△14,750	△150,000
新株予約権の発行による収入	1,928	—
新株予約権の買入消却による支出	△1,508	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	62,575	173,401
財務活動によるキャッシュ・フロー	48,244	23,401
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△324,344	△661,715
現金及び現金同等物の期首残高	740,878	1,114,615
現金及び現金同等物の四半期末残高	416,534	452,899

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の転換により、資本金が100,086千円、資本準備金が100,086千円増加しております。

また、第22回新株予約権の権利行使により、資本金が86,884千円、資本準備金が86,884千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,407,992千円、資本剰余金が1,961,265千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ゲーム 事業	広告事業	and Experience 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	451,428	926,959	66,069	1,444,458	1,444,458	—	1,444,458
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	451,428	926,959	66,069	1,444,458	1,444,458	—	1,444,458
セグメント利益又は損失(△)	△180,910	43,226	△74,674	△212,358	△212,358	△74,681	△287,040

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△212,358
全社費用(注)	△74,681
四半期連結損益計算書の営業損失	△287,040

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ゲーム事業」において、開発中であったゲームタイトルの開発中止並びに運用中のゲームタイトルに関して当初想定していた期間内での収益回収が見込めなくなったため、減損損失として特別損失に計上しました。なお、当第2四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は下表のとおりであります。

ゲーム事業	482,872千円
合計	482,872千円

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ゲーム 事業	広告事業	and Experience 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	301,984	1,073,901	58,480	1,434,366	1,434,366	—	1,434,366
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13	3,751	—	3,764	3,764	△3,764	—
計	301,997	1,077,652	58,480	1,438,130	1,438,130	△3,764	1,434,366
セグメント利益又は損失(△)	△351,701	14,700	△32,693	△369,694	△369,694	△74,906	△444,600

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△369,694
全社費用(注)	△74,906
四半期連結損益計算書の営業損失	△444,600

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで4期連続となる営業損失の計上及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。

当第2四半期連結累計期間においても、営業損失の計上及びマイナスの営業キャッシュ・フローの計上が生じております。また、固定資産の減損損失等の特別損失の計上もあり、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しており、その計上額に応じて一時的に純資産が大きく毀損する可能性があります。

以上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりますが、前連結会計年度に第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権の行使や転換社債型新株予約権付社債及び新株予約権の発行、当第2四半期連結累計期間の新株予約権の行使による資金調達により、財務基盤の安定化に努めております。加えて①ゲーム事業の注力ジャンルへの集中、開発・運営人員の最適な配置による売上の維持拡大、受託開発や他社とのアライアンスによるリスク分散、収益獲得機会の増加、②広告事業の売上の維持拡大、データ活用した新機能やサービス開発による収益力の強化、③and Experience事業で展開するサービスの選択と集中による収益改善、④IoTの事業展開含む事業構造の移行と再編による収益力の強化、⑤資金調達や資金繰りの安定化に努めてまいります。これらの対応策を事業を取り巻く環境の変化に適応し推進していくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。